

平成 23 年度入省予定
環境省 I 種理工系

「内定者の声」



《はじめに》

本紙は環境省 I 種理工系内定者（平成 23 年 4 月及び平成 23 年 1 月入省予定）が自主的に製作したものです。

幅広い人材を求める環境省を皆様に知っていただくこと、環境省に興味を持っていただくことを目的に製作しました。

ここに示した内定者の経験が、皆様の進路選択の一助となれば幸いです。

平成 22 年 12 月
環境省 I 種理工系内定者 一同

《本紙構成》

* 内定者データ一覧

* 内定者個人ページ

〈項目〉

◆基本データ

- ・ 専攻
- ・ 試験区分
- ・ 筆記合格年度
- ・ 官庁訪問時期
- ・ 説明会※参加回数

◆就活のスケジュール

◆自分を表すエピソード

◆趣味、特技

◆志望動機

◆官庁訪問について

《付記》

本紙内容に関する責任は、全て製作者である内定者にあります。また、各人の考え方、勉強法などはあくまで個人的な見解です。御理解の上お読み下さい。

※ 説明会...霞ヶ関 OPEN ゼミ、人事院や大学主催の説明会、
環境省主催の政策シミュレーションなど

内定者データ一覧

《男女比》

男性 5名	女性 2名
-------	-------

《官庁訪問春夏比》

春 2名	夏 5名
------	------

《試験区分》

理工Ⅰ 3名	理工Ⅲ 1名	理工Ⅳ 2名
--------	--------	--------

《学歴》

修士新卒 6名	博士新卒 1名
---------	---------

《初回訪問日》

1日目 5名	2日目 1名	3日目 1名
--------	--------	--------

《OB訪問の有無》

あり 3名	なし 4名
-------	-------

《その他の進路》 複数回答

民間 4名	公務員 4名	進学 2名
-------	--------	-------

《ボランティア参加経験の有無》

あり 2名	なし 5名
-------	-------

《予備校の利用》

模試のみ 1名	なし 6名
---------	-------

* これは、本年度の内定者に限った結果です。

基本データ
【専攻】
応用生命化学専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、女
【区分】
理工IV
【筆記合格年度】
平成 20 年度
【官庁訪問時期】
春
【説明会参加回数】
学部 3 年時： 5 回、修士課程 1 年時： 4 回

【就活のスケジュール】

〈学部 3 年〉

- 8 月 大学の集中講義がきっかけで国家・国際公務員に興味を持つ。
- 11 月 図書館で一次試験の過去問題集（大学所蔵）を解き始める。
- 2 月 国連機関のスタディキャンプに参加 一時勉強から離れる。
- 3 月 勉強と卒論研究の為にアルバイト（塾講師）を辞め、本格的に勉強開始。
このころ昨年度の専門問題を入手。出題形式をみて対策を決定。

〈学部 4 年〉

- 4 月 卒論研究を始めつつ、こつこつと専門科目中心に勉強。
- 5 月 ○第一次試験
感想：ずば抜けた優秀さではなく、的確な戦略や当たり前の努力が問われている試験。
第二次試験直前の一週間：研究室を休んで専門の勉強をする
- 第二次試験
感想：自分の大学で開催されたため気が楽だった。
専門問題は選択式だったので解きやすい問題を選択。
論文試験は単に「公務員」観を述べるような議題が出たので書きやすかった。
- 6 月？ 二次試験後、人事院面接の通知はがきが面接の 2 日前くらいに来る。
はがきが来てから面接対策をする。（友人相手に端的に話す練習）
感想：緊張したが、笑顔と大きな声は努めて維持した。
- 7 月 進学を決めていたがせつくなので官庁訪問期間（2 週目）に文字通り官庁

を訪問（見学）しに上京。

ある面接官の発言に衝撃を受け、自分の現実を見る目の甘さを思い知る。

〈修士1年〉

8月 農水省のインターンシップに参加。働き方に好感。

10月～1月 民間（シンクタンク、独立行政法人）と併願で省庁の説明会に参加する。

2月、3月 複数の省庁の政策シミュレーションに参加。

3月 勉強と卒論研究の為にアルバイト（塾講師）を辞め、本格的に勉強開始。

〈修士2年〉

4月 官庁訪問（春） 2省を訪問。最終面接で官庁訪問中に省庁で働く覚悟を固める。

【自分を表すエピソード】

○研究室の本棚が私の所だけ生物学徒の本棚らしからぬ点。

トンパ文字の壁飾りの奥には、ご朱印帳があったりハイデガーや尾州河内本源氏物語（原文）、中国語訳村上春樹があったりします。新たなテーマとの出会いがある度に少しずつ入れ替わります。

○席に座っていることが少ない点。

実験をしているせいもありますが、研究室に閉じこもっていられずにフィールド（水田）やら他専攻やらに飛び出しています。でも新しく研究室にきたお隣さん（中国人）とのコミュニケーションが面白いため、最近は着席している時間も増えました。今ちょうど「日本式の結婚式」と「お守りの中身」について説明していました。

【趣味、特技】

たくさんありますが、「ことば」やそれを用いたコミュニケーションに関する趣味が多いように思います。またコミュニケーションツールの一つとして太鼓をこよなく愛し、収集・演奏に興じています。

最近はおっぱら中国語漫才・古文書の模写・アフリカ太鼓の収集に取り組んでいます。

特技は何事でも楽しみモチベーションを保ち続けることです。どうしてもモチベーションが維持できないときは気持ちを切り替えに一人旅に出ます。

【志望動機】

<志望の経緯>

生まれは豊富な地下水を有する自然豊かな熊本県。その後転々とした大都市で、水問題や都市公害を強く意識しました。「おいしい水は当たり前」ではないという気づきが私の原点のように思います。また人生の折節に「水俣」「環境」とむきあう機会があり、次第に水と公害の問題に積極的に関わりたいと思うようになりました。環境省では何らかの形で水

問題・公害に携わることができますし、生命に関わるこれらの問題を通して、いろんな国の人々と深く関わり直接仕事をする機会もあります。従って環境省職員を選択しました。

<これからやりたいこと>

世界の貧困や水問題の解決にも関心を持っているため、JICA や国際機関への出向も積極的に行いたいと思っています。また、環境問題に関する知見と先見性で他国と切磋琢磨し、競争と協力の中で日本の存在感を高め「環境国家 日本」を名実ともに実現したいと考えています。

【官庁訪問について】

- ・世間話（読書歴やサークル活動について）→日常的にもの考えておけば大丈夫です！
- ・志望動機、やりたい仕事→紙面掲載の情報（ホットな話題）などの材料集め。
- ・自分の売り込みポイント、改善点→自己分析。
- ・体力と精神的タフネスの有無→改善中でも可です。
- ・女性の働き方について→自分のキャリアについて考えておくといいと思います。

【メッセージ】

読書はしておくに限ります。

この時期には、一つのテーマをもって複数の立場・著者の本を読むのが良いかと思えます。そこから自分が何を考え、またその過程で得たものを過去の解釈・現在の行動・将来の展望にどうかすかが大事ではないでしょうか。

同様に、学生時代に海外や地方へ旅行しておくの良いと思います。現場の状況と情報媒体からの知識を用いて、世界に関して自分なりの見解を導き出してください。

基本データ
【専攻】
環境システム学専攻
【学年、性別】
博士前期課程2年、男
【区分】
理工 I
【筆記合格年度】
平成22年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
4回

【就活のスケジュール】

3月頃までは民間オンリーの就活をしていて、3月末ぐらいに国 I に舵を切りました。3月末～4月上旬にかけて環境省の説明会に参加して、その頃試験勉強を開始しました。試験勉強は、過去問を解いて課題を見つけ、その分野を市販の問題集や高校時代の教科書・問題集などを使って学習しました。専門分野は「資源エネルギー事情」といった知識系の分野でした。出題されるであろうテーマをリストアップし、各テーマについて調べ、ノートにまとめていきました。

〈修士1年〉

- 12月 民間説明会参加
- 1月 民間エントリー開始
- 3月 民間選考、本省主催説明会

〈修士2年〉

- 4月 試験勉強開始
- 6月 官庁訪問

【自分を表すエピソード】

学部時代は、環境サークルでの活動に打ち込んでいました。リサイクル弁当容器の普及活動、学園祭の環境対策、環境ビジネスコンテストの運営、新歓期のビラ拾い・再配布など、興味を持ったものには何でも手を出していました。印象に残っているのは、大学1年生の時に環境ビジネスコンテストの広報のため愛知県の岡崎と名古屋まで日帰り（自腹!!）で単身広報に行ったことです。それ以降、「迷ったら行動」を合言葉に、フットワーク軽く行動できるようになった気がします。

活動自体もそうですが、何よりサークルの内外問わず色々な人と話しをして、飲んで、議論したことが財産になったと思います。相手の意見を引き出そうと工夫するうち、「なるほど」と「たしかに」が口癖になるほどに…。

【趣味、特技】

街歩き、麻雀、野球、読書、うどん料理

【志望動機】

私が環境問題に関心を持ったのは、高校時代テレビ番組などを通して環境問題について知り、「これはヤバイな」と率直に思ったことがきっかけでした。「もののけ姫」を観たことも影響していると思います。それまで、環境問題を、守るべき「環境」と、それを破壊する「人間」という単純な構図でしか考えていなかった私にとって、生きるために山や森を切り開く人間たちの姿はとてもショッキングでした。また、「もののけ姫」は、経済的な豊かさのために環境を汚染し続けるという点で、現代の社会にも当てはまると気付きました。そして、そうした環境と経済のトレードオフ（二律背反）がある中で、環境を保全するというチャレンジをしたいと考えるようになりました。

大学で所属していた環境サークルの活動を通して強く実感したのは、仕組みや政策の重要性でした。学園祭の環境対策では、ごみを効率良く分別・収集する仕組み作りや、ごみ箱に付く分別指導員、模擬店の店員への研修を行うことでルールを徹底させたことによって、うまく運営することができました。海岸清掃では、そもそもごみのポイ捨てをさせない方が断然効率的なのでは、と考えさせられました。こうした経験から、仕組みや政策の力で環境問題を解決することに魅力を感じました。

ところが当初環境省への就職は選択肢に無く、就職活動も民間企業のみ回っていました。“国家公務員には何も出来ない”といった偏見があり、しかも理工系行政官という入り口があることも、理工系でも政策作りに携わることができることも知らなかったことが理由でした。

就職活動真っ只中の3月下旬になって、本当にやりたいことはサークル活動を通して感じた“政策の力による環境問題解決”なのではと思い環境省の説明会に参加したことで誤解が解け、民間就職を止め公務員一本に絞りました。今では、何も出来ないどころか、結局は自分次第で、何だって出来るんじゃないかと思っています。（もちろん、環境省なので環境行政に関して、ですが）そのためのリソースは揃っていると思います。

【官庁訪問について】

半分は官庁訪問申込書（官庁訪問初日に提出する、民間企業で言うエントリーシートのようなもの）に書いたことについての質問、半分はそうでない質問だったように思います。もちろん面接官によってこのバランスはかなり異なりますが。

官庁訪問申込書には、志望動機・学生時代にやってきたこと・関心のある環境問題・趣味などを書くので、面接時にはサークル活動で苦労したことなど、より具体的な内容について訊かれました。それ以外では、どんな公務員になりたいか、地球温暖化はどうすれば解決できると思うか、といった公務員・環境省ならではの質問もありました。

準備段階で自己分析や、将来どんな自分でありたいかを考えることが重要なのは言うまでもありませんが、普段からニュースなどに対して自分の意見を持ったり、自分だったらどうするかを考えたりすることも重要だと思います。

官庁訪問の面接ではたいていの場合、業務についての質問をすることが出来ます。（面接官によっては大半が業務説明だったりします）業務内容や働き方、省の雰囲気について理解を深めて、志望動機をブラッシュアップしていくことが官庁訪問期間中は重要だと思います。

基本データ
【専攻】
システム創成学専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、男
【区分】
理工 I
【筆記合格年度】
平成 21 年度
【官庁訪問時期】
春
【説明会参加回数】
5 回程度

【就活のスケジュール】

〈修士 1 年〉

- 5 月 筆記試験を受けて合格
- 6 月～10 月 環境省の説明会に数回参加
- 11 月～3 月 様々な企業の説明会に参加

〈修士 2 年〉

- 4 月 環境・エネルギー分野の企業等に絞り面接に臨む
環境省、石油開発会社から内々定をいただきました。

【自分を表すエピソード】

小さい頃からスポーツが好きで、中学高校時代は野球部に所属していました。野球は好きだったもののなかなか結果を出せず、大学では心機一転、ラクロス部に入部しました。ラクロスはそのスポーツ自体が魅力的だったことに加え、多くの人が大学から始めるためスタートラインが同じで、やった分だけ結果が出ることにも惹かれ、一気にのめりこみました。大学生活の 4 年間はラクロス漬けで、魅力的で情熱のある先輩・同期・後輩と一緒に、楽しく時には辛い日々を有意義に過ごせました。自分が 4 年生の時には全日本選手権に出場し、その時の経験は自分にとって大きなものとなりました。

旅行や自然が好きなので、大学院では研究の合間に海外旅行をしたり、国内では白神山地や八重山諸島などを訪れたりしています。自分の今のモットーは「楽しく生きる」ことなので、多くの人と一緒に笑いながら毎日を過ごせるよう、日々歩んで行きたいと思いません。

【趣味、特技】

スポーツ（ラクロス・野球・フットサル）、旅行

【志望動機】

父母が共に学生時代山岳部に所属していたこともあり、私が幼少の頃から山やキャンプに連れて行ってもらっていました。育った場所も都内では比較的自然豊かな場所で、小さい頃から自然環境の恵みを感じながら育ってきたと思います。中高での勉強を通して、科学の面白さを知り、科学の知識を活かして社会に貢献できるような仕事がしたいと考えるようになり、その中でも自分の好きな自然と密接に関わる「環境」というフィールドで活躍したいと思うようになりました。

環境に関する仕事をする場としては、NPOや民間企業、公的機関等が考えられますが、公共の利益である環境の恵みを十分に維持・管理・活用できるのは公的機関であろうと考え、その中でも一番影響力を持つのではないかと考える環境省を志望するに至りました。環境省での仕事を通して、豊かな環境のもとで人々が笑顔で暮らせるような社会へ、日本を導いていきたいと思っています。

【官庁訪問について】

一般的な就職活動の際の面接と同様、志望動機・自己アピール・研究内容等を、論理的に分かりやすく伝えられるようにしておくと思います。また、日本の目指すべき環境分野の将来ビジョンを自分なりに描き、それを達成するためにどのようなアプローチを取りたいと考えているのかを、簡潔に伝えられるようにしておくことも重要だと思います。

基本データ
【専攻】
生物科学専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、女
【区分】
理工IV
【筆記合格年度】
平成 22 年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
0 回（1 回参加し、途中退出）

【就活のスケジュール】

〈修士 1 年〉

- 7 月 合同企業説明会に初めて参加。
- 9 月 民間企業を志望して活発に各社説明会や合同説明会に参加。
- 11 月 民間企業が第 1 志望だが、官庁の説明会に参加して興味をもつ。
- 12 月～2 月 民間企業の就活メインの傍ら、某省の政策シミュレーションも積極的に参加。
- 3 月 民間の就活のみ。（研究ほとんどできず）

〈修士 2 年〉

- 4 月（上旬） 民間面接ラッシュ
- （中旬） 国家公務員のみ志望を絞り、国 I の試験勉強をこの時点から始める。
- 5 月 国 I 試験×2 回
- 6 月（上～ 専攻の研究中間発表の準備
- 中旬） ※不合格だと確信していたので、官庁訪問対策は何もせず。
- （下旬） 官庁訪問
- 7 月 内々定

【自分を表すエピソード】

プロの小劇団に所属し、演出助手を務めました。様々な年齢・価値観の人たちと関わる中で、人とのつながりの有り難さと積極的に行動することの大切さを学びました。

【趣味、特技】

靴磨き、マインスイーパ、バレエ(特技じゃないけど好き)

【志望動機】

<国家公務員>民間の就職活動を通じて日本は今のままじゃいけないと思うようになり、「そう思うのだったら人任せにせず自分が日本を変えようと動くべきだ」と考えました。また、今までずっと周囲に助けられて生きてきたので今度は私が周囲の幸せな暮らしを守ることによって恩返しをしたいと考えたことから、国家公務員を目指しました。

<環境省>環境分野は日本に住むすべての人や企業が意識・行動を変えていくことが求められ、行政の働きかけが今後もっと必要になる、やりがいのある分野だと思ったので環境省を志望しました。また、面接で実際に職員の方々に会い、こんなアットホームな雰囲気の中で一緒に働きたいと思ったのも志望動機のひとつです。

【官庁訪問について】

官庁訪問前にやっておけば良かったこと

1. 新聞をちゃんと読んで、内容とそれに対する自分の考えをまとめる。
2. 環境省についてきちんと調べる。その上で、もし自分なりに「ここはもっとこうしたほうが良いのでは」という考えがあればまとめておく。

基本データ
【専攻】
土木工学専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、男
【区分】
理工 I
【筆記合格年度】
平成 22 年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
4 回

【就活のスケジュール】

〈修士 1 年〉

- 11 月 合同説明会等に参加。シンクタンクの環境部門に興味を持ち、東京開催の説明会等にも出向く。
- 12 月 某製鉄メーカーの説明会を聞き、強く興味を持つ。
- 2 月 環境省で働きたいと考え、勉強開始。
- 3 月 某製鉄メーカーの会社見学会に参加。社員の方々の人柄や仕事内容に、心が大きく揺れる。
- 3 月末 環境で日本と世界を変えたいという思いが勝り、環境省一本に絞る。

〈修士 2 年〉

- 5 月 国 I 一次試験・二次試験、地方公務員
- 6 月 国 I 合格、官庁訪問
- 7 月 内々定

【自分を表すエピソード】

地元静岡の自然の中で育ったことに加え、幼いころより星や地球、生き物に並々ならぬ興味があり、「生き物地球紀行」という NHK の番組を欠かさず見ていました。したがって、物心つく頃から大自然と地球のシステムに対する敬意のようなものを抱いていたように思います。地球環境問題というものに興味を持つてからは、どこからか湧いて出てきた使命感に突き動かされ、環境問題について調べ物をするのが日課になっています。

また元来ののめり込みやすい性格から、中学から大学までの 10 年間卓球部に所属し、ひたすら部活ばかりをしていました。大学では卓球の技術面だけでなく、部の運営や伝統の

継承というものに惹かれ、仲間たちと侃々諤々議論を繰り返すことで、課題に取り組む能力が身についたように思います。環境問題についてあれこれ考えたり、議論したりすることに熱中するようになっていったのも、こうした性格に起因するような気がします。

【趣味、特技】

卓球、読書、ギター、カクテル

【志望動機】

環境問題を強く認識し始めたのはサンゴ礁の白化を目にしてからですが、高校生の時にダイナマイト漁に関する TV 番組を見たことが環境問題に対する自分の考え方を大きく変えました。サンゴ礁の保護、人命への危険性からダイナマイト漁を禁止する政府と、ダイナマイト漁無しでは生きていくことのできない漁師たちという構図が存在することを知り、それをきっかけに「環境問題の解決は、いわゆる自然保護とは根本的に異なる」「私たちがずっと地球に暮らし、その美しさ、雄大さを享受し続けるためには、一体どうすれば良いのか」と考えるようになりました。大学入学に際しては、当時の自分の適性などを考慮して工学（土木、水環境）を選択し、「将来環境問題の解決に最も貢献できる道」を探していました。

そうした中で環境省を選択した理由は、大きく3つあります。1つ目は、環境保全を第一の目的としていることです。各省庁が何らかの業界・団体を背にして社会のあるべき方向を模索しているのに対し、環境省が背にしているのは地球環境そのものです（ある職員の方が仰っていました）。人と地球のために働きたい人には、もってこいの職場と言えます。2つ目は、環境と名がつくあらゆる政策にアプローチできることです。環境という業界が大きな広がりを見せている昨今でも、環境基準の策定などの基盤づくりから、各種キャンペーンなどの普及・啓発政策まで幅広く業務に携わることができる場所は環境省以外にありません。3つ目は、環境省が「環境と経済」について現時点で（恐らく今後も）最もリアルな感覚を味わえる場所であると思えたからです。環境問題というものがまだまだ外部不経済である現代社会において、環境省において理想を掲げて働くことによって、非常に難しい局面を迎えることも多いと思います。しかし真に持続可能な社会を築くためにはどんな政策が必要で、どんな交渉を行う必要があるか、見極められる人材になりたいと思いましたが、環境省で働くことで、そのような人材になれると思っています。

【官庁訪問について】

就職に関する基本的な面接から大きく外れることは無いと思います。志望動機、自己PR、研究内容等に関して、簡潔かつ明瞭に答えられることが必須であると思います。また環境政策というものを通じて、今後の日本を、世界を、どのように変えていきたいか、そういう自分なりの青写真を描いておくことも重要であると思います。

基本データ
【専攻】
広域科学専攻
【学年、性別】
博士後期課程3年、男
【区分】
理工Ⅲ
【筆記合格年度】
平成22年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
5～6回程度

【就活のスケジュール】

〈博士2年〉

6月～8月 外資系コンサルティングファームサマーインターンに応募するが全て選考落ち

〈博士3年〉

春 国Ⅰ試験勉強開始
5月 国Ⅰ一次試験、二次試験
6月 官庁訪問
7月 内々定

【自分を表すエピソード】

高校2年時、アメリカへ1年留学しました。言葉もわからず友人もない場所で、勉強、スポーツ等非常に過酷な状況でしたが、努力の持続や外に働きかける姿勢が困難を打破し、何かを達成することの喜びを知りました。また、今でも交流の続くホストファミリーからは、人種や言葉に関係なく人は理解し合えることを学びました。

また、大学3年時には1年間パリでの絵画留学を経験しました。絵を描く上で重要な、大枠(構図)を捉える能力、個々の現象を描写するデッサン力、部分が全体の一部としてどのような役割を果たしているのかという分析力を身につけました。この経験から、創造の難しさと楽しさ、作品を通して人と感動を共有する喜びを知りました。

大学院では素粒子物理学の研究に没頭、他の研究者との議論が深い理解へ繋がることを学び、加えて2度の留学経験から、物理、美術、語学等に触れることを経て、全ての事象や人間の営みの背後には原理や法則または理由があり、普遍性の追求がいかに新しい発見

や応用にとって重要で、面白いかということ学びました。

最後に、世界21カ国を巡り様々な人や自然に触れ、私は一人間に過ぎないという基本的な事実を認識しました。国を跨いだ協力が必至である今後の人類にとって、その様な認識を持つことや謙虚な態度が人との交流に不可欠であると考えています。

【趣味、特技】

絵、写真、スポーツ、料理、ピアノ

【志望動機】

私は自然と人間に興味があります。その興味に沿って物理学、語学、芸術、スポーツ等広く深く学び、同時に日本国内を含め世界各地の自然や人間に触れてきました。その経験を通して、自然環境に過度に負担をかけている人間の生活態度に問題意識を持つようになりました。事実、人間活動の結果公害、温暖化、生物多様性の喪失として様々な問題が表面化しています。

では、これら環境問題の特徴はなんだろうか。私は以下の2つだと考えます。

1. 問題が地球規模であること
2. 人間生活のあらゆる段階で関わること

従ってその解決にあたって

1. 一人一人の価値観を、社会システムを構築することによって変えること
2. 個人から国という枠組みまで幅広い対応が必要であること

の2点が重要です。そしてこのようなアプローチで環境問題解決が可能な立場は、一個人でも一企業でもなく環境省です。以上が、私が環境省を志望する理由です。

【官庁訪問について】

官庁訪問に関しては

- ・深く論理をつっこまれる場合もあるので、志望動機、研究内容、長所短所等をしっかりと練る。
- ・博士後期課程在学者は、研究に励む一方で官庁を志望した理由を明確にする。
- ・他省庁への関心や環境省との印象の違い、環境省の政策等について問われることもあるので、理解を深めておくこと。

等が重要であると考えられます。

基本データ
【専攻】
原子力国際専攻
【学年、性別】
博士前期課程 2 年、男
【区分】
理工 I
【筆記合格年度】
平成 22 年度
【官庁訪問時期】
夏
【説明会参加回数】
4 回

【就活のスケジュール】

〈修士 1 年〉

1 月 ドクター進学から環境省志望へと将来の進路を変更
その後は国 I 合格へ時間が取れる限り独学で勉強、環境省の説明会に参加。

〈修士 2 年〉

5 月 国 I 一次試験・二次試験
6 月 国 I 合格、官庁訪問
7 月 内々定

国 I 合格のポイントはとにかく過去問を研究することに尽きます。特に専門試験は過去問を人事院にお願いするなどして手に入れるか入れないかで雲泥の違いです。私はこれと
いって自分の研究分野とマッチする試験科目がなかったため、今までの浅い勉強経験から
解けそうな科目を見つけて選択しました。専門記述の大問の配点が大きい分多少の運要素
はあるのですが、過去問さえ情熱を持って十分に研究していれば良い結果が出ると思うの
で頑張ってください。

【自分を表すエピソード】

「過去と戦って何が悪い！昔を越えようとして何が悪い！未来は俺が創る！」そのよう
に生きたいと考えています。

【趣味、特技】

深夜はダーツバーで遊び、たまに麻雀なり軟式テニスをして、週末は欧州サッカーを観
戦しています。しかし一番好きなのはプロレス！プロレスラーに憧れを感じます。プロレ

ス好きの人、是非入ってきて下さい！

【志望動機】

官庁訪問前はドクター進学をやめた理由・その後環境省志望を決意するに至るまでの心の動きが志望動機であると考えていました。環境省志望を決意するまでの間、私は説明会に足繁く通いました。環境省の説明会では若手職員の皆様と少人数でお話する機会が設けられていて、環境省の雰囲気や職員の皆様の志を直に感じることができたので、私にとっては自分の志望意志を考えたり省みたり、最終的に決意を固めるのに非常に有効的でした。ちなみに私が行ったのは人事院主催の説明会であり、大学で行われる説明会は違った形式かもしれません。そして前述の通り、官庁訪問中に自分の経験・性格を踏まえて何故環境省を志望しているのかについての内面的な考察まで行っていったわけです。私の場合環境問題に興味を持ったきっかけを明確に挙げることはできなかったのですが、とにかく環境に対する熱意をみてもらえるよう努めました。私の志望動機について具体的な明記はしませんでした。環境省を志望している皆様、是非自分なりの志望動機を発見・確立してみてください。

【官庁訪問について】

私は環境省の官庁訪問を迎えるにあたって、とにかく元気に自分らしく（勿論悪い所は出さないよう気をつけながら）振舞おうと考えていました。最終的になんとか合格したわけですが、基本的にこの自然体で臨もうという姿勢がうまく自分をアピールできた一番の要因でした。また、過去の経験や自分の性格を踏まえた自己分析についても事前に十分できていたと思います。自己紹介して下さいと言われてペラペラと幾らでも話ができるようになっていて良いと思います。反対に、環境省への志望動機については官庁訪問当初とても曖昧でした。自分の中では論理的にまとめた志望動機を頭の中に文章として用意していたのですが、他の仕事に比べてであるとか他の職種は向いていなかったのといったネガティブ志向なものになっていました。その点については官庁訪問中面接をして頂いた（大）先輩方からの指摘で段々と改良されていったわけですが、初めからもっと深く自己分析と絡めて環境省を選んだポジティブな理由を自分の言葉で言い表せるようになっていれば良かったと思います。心の奥底にある志望動機まできちんと表現できないとどんな熱意を持っていても面接官には中々伝わり辛いものになってしまうようです。後もう一つ準備が足らなかったと反省している点は、環境省の業務内容についての具体的な知識・自分の見解についてしっかりと頭の中でまとめきれなかったことです。私は環境省の業務内容について意見を求められた時に、すぐに言葉が出なかつたり自分の意見を言っても後が続かなかつたりかなり苦勞したことがありました。面接は業務内容テストではないので全てを完璧に暗記してもしようがないのですが、やはり面接時のアピール時間を無駄にしてももったいないので、環境関係について日頃から関心を持って自分の考えを作っておき、

直前にはそれらをすぐ言葉にできるようまとめておく随分と有利だと思います。